

2万人が来場 いわて生協 地産地消フェスタ

5月19～20日、いわて生協ベルフ牧野林で「第3回復興支援いわて生協地産地消フェスタin牧野林」(以下、地産地消フェスタ)が開催され、2万人が訪れました。



多くの人でにぎわうフェスタ会場。

ベルフ牧野林で開催された「地産地消フェスタ」は、いわて生協と岩手県の共催で行なわれました。

このイベントは「地元岩手の商品をもみんなで利用して、岩手を元気にする」というテーマで2年前より始まり、昨年の東日本大震災を経て、復興支援という大きな目的が加わりました。フェスタでは、沿岸被災地域から出店

した28の生産者・メーカーをはじめ、地元の多くのメーカーがブース出しました。

いわて生協常務理事の阿部慎二さんは、「被災した商店の出店数が昨年より増えてきているのがうれしいです。今回は、県の振興局も強力にサポートしてくれました。目指すものは同じなので、良い関係を築くことができ、

今後につながっていけば」と話していました。

このほか、宮古高校の生徒が招待され、楽器を演奏したり、いわて生協の産直アイコープ真崎わかめを生産している田老町漁協・青野滝養殖組合長の山本泰規さんより、被災地の現状報告が行なわれるなど、多くの人でにぎわっていました。

被災地に寄り添う、ふるまい企画開催

6月9、10、12日の3日間、被災地域や仮設住宅に隣接するみやぎ生協10店舗で、「食のみやぎ復興ネットワーク」の「被災地に寄り添うふるまい企画」が開催されました。



ふるまいには、多くの方が列を作った。

6月12日は「宮城県民防災の日」です。この日程にあわせ、「食のみやぎ復興ネットワーク」は、みやぎ生協10店舗でふるまい企画を行ないました。蛇田店(石巻市)では、エスピー食品(株)がカレーをふるまい、(株)J-オイルミルズはオリーブオイルの小瓶をプレゼント。午後には、カルビー(株)のキャラクター

が子どもたちにお菓子を配りました。

「ふるまい企画」を一斉に開催するのは今年3月に続いて2回目。今回はメーカーや関連業者など36団体が参加し、試食や商品のプレゼント、料理のふるまいを行ないました。蛇田店店長の伊藤勝巳さんは、「ふるまい企画の支援に対しても、メンバー(組合員)さんの期待は我々が思っている以上に大きい」

と話します。

みやぎ生協・食のみやぎ復興ネットワークの藤田孝さんは、「参加団体は被災地を支援したいという思いを持ってくださり、呼び掛けに即座に答应ってくれたことが大変うれしかったです。ここでのつながりを生かして、これからも被災地に一緒に寄り添う機会をつくっていきたいです」と感謝していました。